



Graduate School of Yamazaki University of Animal Health Technology

ヤマザキ動物看護大学大学院

Graduate School of Animal Health Technology

動物看護学研究科

Animal Health Technology Course

動物看護学専攻（修士課程）

動物看護学領域

動物人間関係学領域

2024

（令和6年度）

ヤマザキ学園 創立55周年

1967（昭和42）年12月10日、創始者の自宅応接間でスタートした本学園。
建学の精神と教育理念には、戦後の日本において「命」の教育を行い、「技術」だけではない、
生命観や自然観に支えられた「全人格的な教育」をめざした創始者の想いが込められています。

学園の父であり母である創始者



創始者
山崎良寿
1919～1990



創始者夫人
山崎 緑
1923～2020

建学の精神

「生命への畏敬」「職業人としての自立」

“人間は、地球上に存在する多種多様な生命に対し、尊敬の心を持ち、生態系の摂理の中で生かされている生命であるという思想のもと、共に生きるものに限りない愛を注ぐ”この精神を通して、調和のとれた平和な社会の建設に寄与する豊かな人間性と、幅広い視野を持つ人間教育を行う。

教育理念

いのち
「生命を生きる」

動物愛護の精神のもと、人間が自分たちよりも小さな弱い立場の生命に思いやりの心を忘れず、動物たちと豊かに共生すること。



理事長
博士(学術)・動物人間関係学

山崎 董

日本初の動物看護学修士号が誕生

2020（令和2）年10月23日（金）「ヤマザキ動物看護大学大学院 動物看護学研究科」の設置が認可され、2023（令和5）年3月16日（木）、日本初の動物看護学の修士号が授与された一期生が誕生しました。

日本の動物看護学における科学的体系化をめざし開学したヤマザキ動物看護大学には、日本初の動物看護学部があります。本学大学院の修士課程は、同学部の動物看護学科と動物人間関係学学科での教育を基盤とし、専門科目に「動物看護学領域」と「動物人間関係学領域」を配置しています。人と動物の豊かな共生社会をめざすうえで、社会で求められるのは多様な価値観や物事を多角的にとらえる能力です。そのためには動物看護学にとどまらず、人文科学や社会科学、自然科学など、幅広い分野にわたる“総合知”を教授することが本学大学院の使命だと考えています。修士論文では、「信州川上犬の保存における毛色の分子遺伝学的研究」をテーマとして川上犬の生物学的特性を研究した論文や、「犬の絵画を通してみられるプードルの変容の歴史の考察」といった「アート」を切り口に人間と犬との関係性の変遷を研究した論文などが発表されました。このように多彩な学問分野の垣根を超えて研究できる本学大学院は、本学動物看護学部やヤマザキ動物看護専門職短期大学 専攻科卒業生だけでなく、他分野の大学からの進学も可能です。既存概念にとらわれず、新しい感覚をもって指導者として活躍していただく方の入学をお待ちしています。

大学院修士課程の概要

【大学院名称】ヤマザキ動物看護大学大学院

【研究科・専攻・定員】

研究科	専攻	修業年限	入学時期	入学定員	学位
動物看護学研究科	動物看護学専攻	2年	4月	5名	修士 (動物看護学)

教育研究上の理念及び目的

- ア 教育研究上の理念は、生命を尊重する倫理観を備え、幅広い視野と創造性をもった豊かな人間教育を行うことである。
- イ 本研究科は、法制化された愛玩動物看護師がチーム動物医療において果たす役割に鑑み、動物看護学に関する学術的理論及びその応用を深く教授研究することを目的とする。
- ウ 本研究科は、人と動物の豊かな共生社会を構築するため、人と動物の関係に関する学術的理論及びその応用を深く教授研究することを目的とする。
- エ 本研究科は、動物看護師の養成所（専修学校等）、動物病院、動物関連企業及び動物関連団体等に従事し、公衆衛生の教育・指導に貢献するため、学術的理論及びその応用を深く教授研究することを目的とする。
- オ 本研究科は、ペット関連産業界（動物医療を含む）の発展のために、動物看護学及び動物人間関係学の研究を深く追求し、2領域の指導者を養成することを目的とする。

動物看護学研究科の特色

動物看護学研究科 動物看護学専攻（修士課程）の教育課程を編成する3つの枠組み



動物看護学領域

動物看護学領域とは

教育研究において、**動物医療・動物の健康**を対象範囲とし、『「愛玩動物看護師法」及び「動物の愛護及び管理に関する法律」に則り、生命を尊重し、愛玩動物を対象に高度チーム動物医療を支え、獣医師の指示の下、診療の補助及び疾病にかかり、または負傷した愛玩動物の世話、看護』を定義とする。



動物人間関係学領域

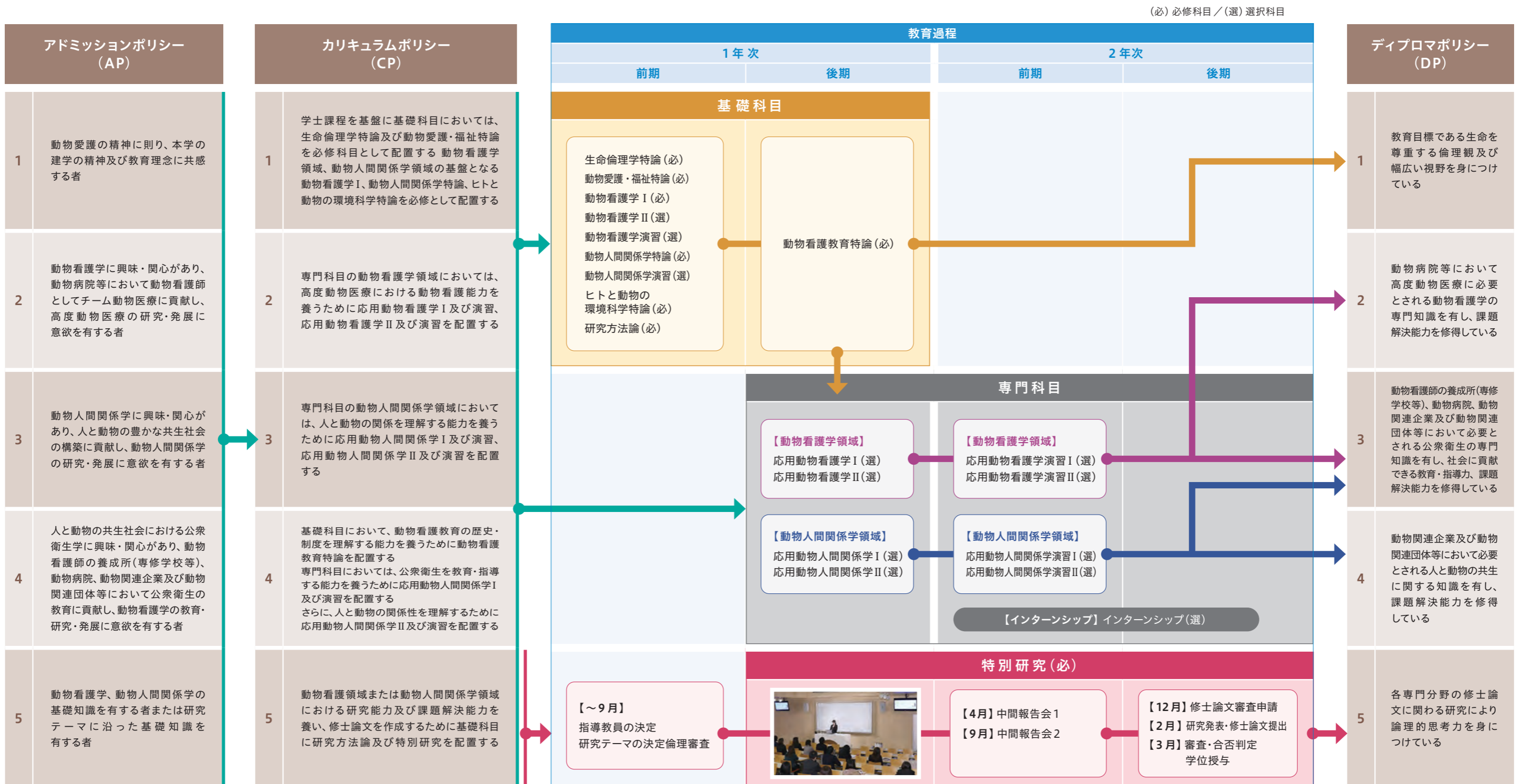
動物人間関係学領域とは

教育研究において、**人と動物の共生社会に関するもの**を対象範囲とし、『「愛玩動物看護師法」及び「動物の愛護及び管理に関する法律」に則り、生命を尊重し、友愛及び平和の情操の涵養に資するとともに、人と動物の共生する社会の実現を図り、動物の適正飼養及び人の生活環境の保全』を定義とする。

養成する人材像

- ア 建学の精神と教育理念に則り、生命を尊重する倫理観を備え、社会に貢献する人材
- イ 動物病院等に従事し、動物看護師として、高度動物医療の研究・発展に貢献する人材
- ウ 動物関連企業及び動物関連団体等に従事し、人と動物の共生に関する研究・発展に貢献する人材
- エ 動物看護師の養成所(専修学校等)、動物病院、動物関連企業及び動物関連団体等に従事し、公衆衛生の教育・指導に貢献する人材
- オ 研究により身につけた論理的思考力をもって、発展するペット関連産業界(動物医療含む)に貢献する人材

動物看護学研究科 動物看護学専攻(修士課程)の教育課程を編成する3つの枠組み



動物看護学研究科が取り組んでいる研究テーマ

動物看護学領域



動物がん看護における動物看護師と飼い主の信頼関係構築に関する研究

研究指導教員 梅村 隆志 教授 (動物病理学分野)



肝再生巣を母地とする肝腫瘍形成過程の分子病理学的解析

研究指導教員 梅村 隆志 教授 (動物病理学分野)

動物人間関係学領域



動物虐待と児童虐待の関連性についての研究

研究指導教員 植田 富貴子 教授 (衛生学・公衆衛生学分野)



自然度の高い森林地域から市街地に隣接する緑地帯にかけての哺乳類の生息環境研究

研究指導教員 植田 富貴子 教授 (衛生学・公衆衛生学分野)



ペットロス回復支援に向けたつながりと場の研究—自助グループ (SHG) を中心—

研究指導教員 新島 典子 教授 (ペットの社会学分野)

ER

ER八王子動物高度医療救命救急センター

地域のホームドクターと連携し、高度な動物医療を提供する二次診療施設があります。最先端 (MRI、CT完備) の臨床現場でのインターンシップを経て、共同研究の道も拓けます。




下記の学科で学んだ方たちも本大学院で関連分野の研究ができます

動物看護学部の科目等履修制度

論文作成に必要な動物看護の知識修得のため、本学の動物看護学部の科目等履修制度を利用することができます。費用は1科目あたり2,000円です。

例 ● 獣医学科 ● 獣医保健看護学科 ● アニマルサイエンス学科 ● 動物危機管理学科

● 動物生命薬科学科 ● 臨床検査技術学科 ● 生命動物学科 ● 医療工学科 動物看護学コース

● 動物科学科 ● 食品ビジネス学科 ● 食品科学科 ● 食と健康学類

動物看護学領域

例 ● 獣医学科 ● 獣医保健看護学科 ● アニマルサイエンス学科 ● 動物危機管理学科

● アニマルバイオサイエンス学科 ● 暮らしの生物学科 ● 動物資源科学科 ● 生命環境学科

● 心理・行動科学科 ● 美学美術史学科 ● 社会学科 ● 国際文化学科 ● 芸術文化学科

動物人間関係学領域

動物看護学研究科カリキュラム

(必) 必修科目 / (選) 選択科目

	科目	担当教員
1 年 次	生命倫理学特論(必)	新島典子・加藤理絵・山北宣久
	動物愛護・福祉特論(必)	菅野多恵
	動物看護学Ⅰ(必)	今村伸一郎・梅村隆志・近藤昌弘
	動物看護学Ⅱ(選)	岡崎登志夫・櫻井富士朗・花田道子・小嶋佳彦
	動物看護学演習(選)	梅村隆志・今村伸一郎・櫻井富士朗
	動物人間関係学特論(必)	山崎薫・長島孝行・村上隆広・島森尚子・新島典子・フリッツ吉川綾・早田由貴子・小嶋篤史
	動物人間関係学演習(選)	長島孝行・村上隆広・島森尚子・新島典子・フリッツ吉川綾
	ヒトと動物の環境科学特論(必)	植田富貴子・石川牧子
	動物看護教育特論(必)	山崎薫・植田富貴子
	研究方法論(必)	梅村隆志・今村伸一郎・櫻井富士朗・岡崎登志夫・植田富貴子・村上隆広・島森尚子・新島典子
専 門 科 目	応用動物看護学Ⅰ(選)	今村伸一郎・梅村隆志
	応用動物看護学Ⅱ(選)	岡崎登志夫・櫻井富士朗
	応用動物人間関係学Ⅰ(選)	植田富貴子
	応用動物人間関係学Ⅱ(選)	小黒美枝子・村上隆広・島森尚子・新島典子・フリッツ吉川綾
特 別 研 究	特別研究(必)	梅村隆志・今村伸一郎・富田幸子・岡崎登志夫・植田富貴子・村上隆広・島森尚子・新島典子
	特別研究(必)	梅村隆志・今村伸一郎・富田幸子・岡崎登志夫・植田富貴子・村上隆広・島森尚子・新島典子
2 年 次	応用動物看護学演習Ⅰ(選)	梅村隆志・今村伸一郎
	応用動物看護学演習Ⅱ(選)	岡崎登志夫・櫻井富士朗
	応用動物人間関係学演習Ⅰ(選)	植田富貴子
	応用動物人間関係学演習Ⅱ(選)	小黒美枝子・村上隆広・島森尚子・新島典子・フリッツ吉川綾
	インターンシップ(選)	梅村隆志
特 別 研 究	特別研究(必)	梅村隆志・今村伸一郎・富田幸子・岡崎登志夫・植田富貴子・村上隆広・島森尚子・新島典子

● 修了要件

基礎科目においては、必修11単位に加え、選択4単位の中から2単位以上修得する。専門科目においては、動物看護学領域・動物人間関係学領域のそれぞれから2単位以上修得の上、専門科目(選択科目)全体で9単位以上修得する。以上の基礎科目と専門科目に加え、特別研究10単位を修得し、修了要件は32単位以上とする。特別研究については、研究指導を受けた上で、修士論文を作成し、論文審査に合格することにより単位を修得する。



基礎科目

生命倫理学特論 (必修)



動物看護領域の主導的な職責遂行に必須の、生命倫理の理解と応用的実践力を学修する。伴侶動物を含む全動物種への畏敬の念や愛護の精神を、生命倫理の知識を礎に醸成する。

動物愛護・福祉特論 (必修)



動物愛護・福祉の基本概念に注目し、動物に対する人々の考え方は多様であることを理解させ、動物の生活の質をより良くするためには科学・倫理・法規の3分野の向上が必要であることを理解させる。

動物看護学 I (必修)



動物看護学を学問として発展させるために、基礎の3本柱となる解剖学・生理学・病理学及び薬理学分野の基礎研究について学び、愛玩動物看護師の果たすべき具体的役割を考える。

動物看護学 II (選択)



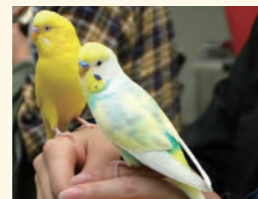
愛玩動物看護師の果たすべき具体的役割を考える指針となる、動物医療における研究法や臨床手技に関する内容について、研究データに基づいて具体的に詳しく教授する。

動物看護学演習 (選択)



動物看護学領域の解剖学・生理学、病理学、内科学分野における研究課題を紹介し、ディスカッション、プレゼンテーションを通して、当該分野における研究の意義を理解できるようにする。

動物人間関係学特論 (必修)



「動物と人間の関係性」のテーマを、アニマルセラピー、分子生物学、動物行動学、文化人類学、社会学、愛玩動物(犬、猫、鳥)の特性などの各分野における幅広い研究手法に基づいて解説する。

動物人間関係学演習 (選択)



人と動物のつながりを、教員が著した成書、論文を例に、文献検索、文献収集、遺伝子・ゲノム情報データベース利用・解析などから理解する。学生自らが把握した情報について討論、発表を行う。

ヒトと動物の環境科学特論 (必修)



本特論では、これまでにどのような環境問題が発生し、それらの問題に対してどのような対応がなされてきたのかを動物看護学分野と関連づけて教授する。

動物看護教育特論 (必修)



動物看護学を修めた卒業生が動物看護学を教授する時代を迎え、長い歴史をもつ人間の看護教育における指導者育成の教育体系を参考に、国内外の動物看護教育の歴史及び動物看護教育制度の現状や課題について教授する。

研究方法論 (必修)



動物看護における研究を実施するための方法論や文献情報の収集法について、各分野別に学修し、これらの学修に基づいて、特別研究のテーマ選定の一助とする。

専門科目 / 特別研究

応用動物看護学 I (選択)

動物看護学領域



解剖学、生理学、病理学は、医学や獣医学を学ぶ基礎・土台となり、動物看護学を学ぶ上で極めて重要である。これら基礎知識をさまざまな臨床場面で応用ができるようにする。

応用動物看護学演習 I (選択)

動物看護学領域



動物看護学演習で学修した内容を基に、それら分野の最新知見を検索、入手し、ディスカッション、プレゼンテーションを通して、動物看護学領域においてどのような意義を有するのか自ら考察する。

応用動物看護学 II (選択)

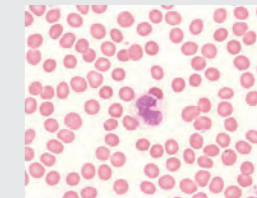
動物看護学領域



愛玩動物の各種疾患の病態に応じた専門的看護の研究を推進するための理論・実験法・看護法についての理解を深め、修士論文執筆に備えることができるように教授する。

応用動物看護学演習 II (選択)

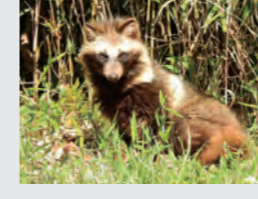
動物看護学領域



演習により、愛玩動物の血液の形態学的及び生理学的な異常を察知し、病態に応じた専門的看護を行うための研究を推進する理論・実験法・看護法について教授する。

応用動物人間関係学 I (選択)

動物人間関係学領域



本講義では人間と動物の共生についての歴史的経緯、現在問題となっているヒトと動物の共通感染症、汚染物質、害獣などの問題点とそれらへの取り組みについて教授する。

応用動物人間関係学演習 I (選択)

動物人間関係学領域



本演習では、動物関連公衆衛生学分野のテーマについて、学生自らが文献を収集して授業時間中に学生間で討論しあうことにより、自ら問題を解決する応用能力を涵養する。

応用動物人間関係学 II (選択)

動物人間関係学領域



動物と人間関係性について、文化人類学、分子生物学、社会学、動物行動学、動物人間関係学の視点から解説する。秋田犬と人、家庭犬と人、猫と人、鳥と人、現代社会の動物と人の関係について研究論文、成書を紹介し、解説する。

応用動物人間関係学演習 II (選択)

動物人間関係学領域



人と動物のつながりについて、長年にわたり保存管理してきた動物種などを扱い、担当教員がそれぞれの分野で著した成書、論文を例に、文献検索、文献収集、文献内容の把握を行う。

インターンシップ (選択)



ヤマザキ動物看護大学構内に併設されている「ER八王子動物高度医療救命救急センター」において、Emergency Rescue(救命救急)の高度動物看護医療体制について実践する。

特別研究 (必修)



動物看護における研究を実施するための方法論や文献情報の収集法について、各分野別に学修し、これらの学修に基づいて、特別研究のテーマを選定し、修士論文を執筆する。

修士論文指導担当 専任教員【10名】

2023 (令和5) 年 4月1日現在

動物病理学分野

梅村 隆志 研究科長・教授
獣医博士・獣医師



環境化学物質のヒト安全性を確保することを目的に、実験動物への化学物質暴露による病態発生の毒性病理学的解析から、その毒性発現機序のヒトへの外挿性を考察する。大学院では特に分子病理学的手法を加え、解析結果の精緻化を進める。具体的な研究テーマとして、化学物質誘発による肝臓の再生性増殖性病変における増殖シグナル ON/OFF 機構、慢性増殖性病変の腫瘍化への転帰に係る分子機構の解明などを進める。

【担当科目】
動物看護学Ⅰ / 動物看護学演習 / 研究方法論 / 応用動物看護学Ⅰ / 応用動物看護学演習Ⅰ / インターンシップ / 特別研究

動物解剖生理学分野

今村 伸一郎 教授
博士(獣医学)・獣医師



骨格構造に関する研究を主体とし、学部卒業研究では、動物の全身骨格標本作製を通じ、動物種差による骨格の特徴の比較を行うことと、透明骨格二重染色標本作製にチャレンジしている。これらを踏まえて大学院では、動物固有の骨格の形態が、その動物の活動様式とどう結びついているのか、部位をフォーカスして探求していく。また、透明標本作製の方法論の最適化を図りつつ、どう応用できるか検討していきたいと考えている。

【担当科目】
動物看護学Ⅰ / 動物看護学演習 / 研究方法論 / 応用動物看護学Ⅰ / 応用動物看護学演習Ⅰ / 特別研究

分子生物学分野 (イヌの特性)

小黑 美枝子 教授
理学博士

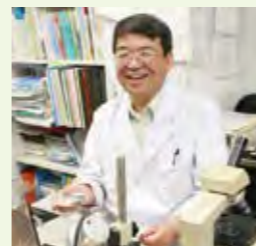


動物人間関係学領域・分子生物学分野では、日本列島に在来した日本犬における毛色、および毛の長さの遺伝様式に関する研究をテーマにしています。日本犬の毛色、および毛の長さに関する遺伝子多型については、いまだ未知のことが多くあります。日本犬の健全な保存管理の上からも、分子生物学的実験研究は重要です。たとえば、信州川上犬について、毛色および毛の長さにする遺伝子多型を解析、同定する研究などがあります。

【担当科目】
応用動物人間関係学Ⅱ / 応用動物人間関係学演習Ⅱ

動物検査学分野

岡崎 登志夫 教授
博士(学術)



動物検査技術を用いて、動物の体を構成するさまざまな物質の機能や動態、臨床的意義等に関する研究を展開している。具体的には、「電子顕微鏡解析によるクジャク、インコ、カケス、カワセミなどの鳥羽毛の構造色発現機構や紫外線反射機構の研究」、「UV 照射で赤色蛍光を発する卵殻や鳥羽毛のプロトポルフィリンの分布や機能に関する研究」、「バビリー期の ALP アイソザイムの研究」、「イヌの進化と P-アミラーゼ活性の関係に関する研究」などである。

【担当科目】
動物看護学Ⅱ / 研究方法論 / 応用動物看護学Ⅱ / 応用動物看護学演習Ⅱ / 特別研究

衛生学・公衆衛生学分野

植田 富貴子 教授
農学博士・獣医師



学部においては、誰かから教えられたものを正確にまとめることができるということが到達点でしたが、大学院ではまだ誰も知らないことを自分自身の力で導き出さなければならない。衛生学・公衆衛生学分野では環境衛生の観点から「環境汚染モニタリングのための生物学的指標に関する研究」および人の精神衛生の観点から「動物虐待に関する研究(指標の作成)」をテーマとして研究を進める。

【担当科目】
ヒトと動物の環境科学特論 / 動物看護教育特論 / 応用動物人間関係学Ⅰ / 応用動物人間関係学演習Ⅰ / 研究方法論 / 特別研究

動物文化分野

島森 尚子 教授
修士(文学)



私が研究のフィールドとしている 18 世紀の英国では、自然科学が体系化されて、宗教、哲学、文学、音楽、美術など、同時代の幅広い分野に強い影響を与えた。愛玩動物の品種改良もその結果と言えるが、実は同時代の愛玩動物に関する英語文献は、十分に調べ尽くされたとは言えない。当ゼミでは、主として文字情報からなる一次資料を分野横断的に扱い、動物と人間の関係にかかわるテーマの設定、論文執筆から完成に至るまでの過程を丁寧に指導する。

【担当科目】
動物人間関係学特論 / 動物人間関係学演習 / 研究方法論 / 応用動物人間関係学Ⅱ / 応用動物人間関係学演習Ⅱ / 特別研究

動物内科学分野

富田 幸子 教授
医学博士・獣医師



心臓や血管などの循環器形態の発生を中心に研究を行う。学部ではイヌ、ネコ、カメ、リス、など様々な脊椎動物についての発生、進化、生態そして病態について幅広く研究を進めている。大学院では胚発生の形態形成過程の3次元レベル解析と分子シグナル解析を合わせた時空間的包括的検討を行う。またMRIやCT情報に基づいた3D解析による正常と疾患動物の病態を解析、理解する。正常と疾患を持つ動物の病態を知ることで動物看護実践の一助となるよう研究を指導する。

【担当科目】
特別研究

生物機能開発学分野

長島 孝行 教授
農学博士



生物は驚くような構造・機能性を持っている。ここではその知恵を解析し、モノづくりやコトづくりにと社会実装を目指します。キーワードは SDGs です。例えば、タマシ等の色は色素ではなく、構造色によるものです。ですので変色することはありません。このメカニズムを解析し、応用することで自ら発色する素材が出来るのです。これなら塗料が必要ありません。

【担当科目】
動物人間関係学特論 / 動物人間関係学演習

野生動物学分野

村上 隆広 教授
博士(獣医学)・学芸員



野生動物学の「難しさ」は、野外で自由に動き回る動物たちの姿をどのように把握し、どのようにデータをとるかという点にあります。その「難しさ」は裏を返せば未知な事実に出会える「面白さ」にもつながります。自然度の高い地域から都市部にかけての林地を利用する哺乳類の研究など、フィールドでの「発見」を大切に研究テーマを選んで指導します。

【担当科目】
動物人間関係学特論 / 動物人間関係学演習 / 研究方法論 / 応用動物人間関係学Ⅱ / 応用動物人間関係学演習Ⅱ / 特別研究

ペットの社会学分野 (ペットロス)

新島 典子 教授
修士(社会学)・専門社会調査士



動物、主に愛玩動物をめぐる社会問題に対し、臨床社会学の視点から相互行為論的アプローチ等を探っている。例えば、伴侶動物の介護支援、ペットロスの辛さ軽減に向けた予防や対処等を検討するため、国内外の先行論文、書籍、記事等を分類する文献調査、現地での参与観察、関係者への聞き取り調査等を行っている。この他、動物霊園、老犬老猫ホーム、動物カフェなどの動物関連産業も含めた、人と動物の多様な関係性を社会的に扱っている。

【担当科目】
生命倫理学特論 / 動物人間関係学特論 / 動物人間関係学演習 / 応用動物人間関係学Ⅱ / 応用動物人間関係学演習Ⅱ / 研究方法論 / 特別研究

研究の基を支える科目担当教員【10名】

●専任教員



山崎 薫 理事長・学長・教授
博士(学術)



石川 牧子 教授
博士(理学)



加藤 理絵 准教授
博士(教育学)・臨床心理士・公認心理師



フリッツ 吉川 綾 准教授
博士(獣医学)・獣医師・獣医行動診療科認定医

●兼任教員



山北 宣久
神学修士
ヤマザキ動物看護
専門職短期大学
学長・教授



花田 道子
博士(獣医学)・獣医師
ヤマザキ動物看護
専門職短期大学
専攻科長



近藤 昌弘
博士(獣医学)
獣医師
共立製薬株式会社 新規
技術領域エキスパート



菅野 多恵
Applied Animal
Behaviour rand
Animal Welfare 修士
号・獣医師



櫻井 富士朗
客員教授
博士(学術)・獣医師
日本動物看護学会
理事長



小嶋 篤史
客員准教授 獣医師・鳥
と小動物の病院リトル・
バード 院長 / 鳥類臨床研
究会 副会長兼編集 / 日本
エシテックペット動物
学会理事



F344系gpt delta ratの肝臓切片をヘマトキシリン・エオジン(HE)染色したものを検鏡している様子

研究を通して真実を追求することや 新しい情報に触れることに魅力を感じます

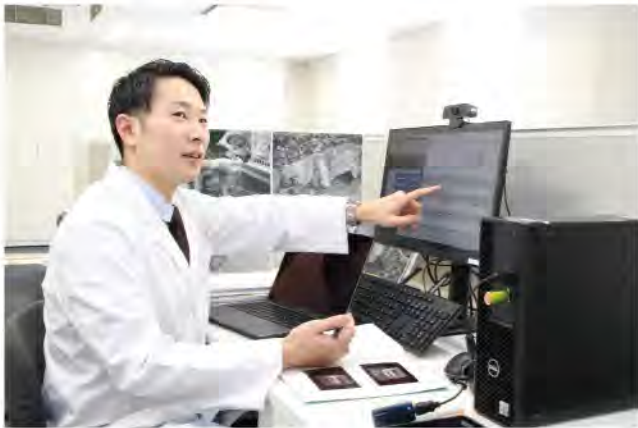
動物看護学研究科1期生
相馬 明玲さん

私は学部での感染症の授業をきっかけに、狂犬病のワクチンを開発したルイ・パスツールという人物について触れ、研究者が病に対してさまざまな仮説を立て、誰の批判を受けようと課題に対して真摯に取り組む、その姿勢に研究者への憧れを抱きました。自分たちが使用している教科書も、多くの研究者たちの業績があつたのだと感動し、そのような経験も大学院進学を志した1つであると考えています。

■ 修士論文テーマ

「ラットにおけるフラン肝臓がん過程早期の SOX9 陽性肝細胞出現の意義に関する研究」

私は、動物の命を救える職に就きたいと考えていましたが、動物看護学を学ぶ中で話することができない動物の医療にとって最も大切なことは予防であると考えました。そして効果のある予防を実践するためには病態自体の理解が必要だと思い、学部では寄生虫学研究室での卒論研究を経て、大学院進学を考えた時に毒性病理学という学問があることを知りました。それは、環境化学物質の安全性を確保するため、その化学物質が引き起こす病態について実験動物などを用いて理解し、ヒトへの外挿を行うことでヒトの健康リスクを評価する学問領域であり、ヒトの健康を予防の側面から守るという学問です。使用されている動物の医薬品や飼料添加物の多くはヒトで使用されているものであり、ヒトの安全性に関わる研究はそのまま動物にも当てはまるものと考えていることから、これまでの動物看護学の学びの中で得た自分の興味に合致すると思えました。また、愛玩動物看護師として研究し多くの命を救うために医薬品や食品などを含む多くの身の回りにおける環境化学物質の安全性の研究をしたいと思いました。そのため、修士課程では、食品香料の基本骨格であるフランの発がん性について研究しました。



長野県天然記念物指定を受けている川上犬個体

研究を通して出会えた方々とのご縁が 次の挑戦につながりました

動物看護学研究科1期生
原 大和さん

私は学部卒業後、大学で助手として勤務していました。動物看護師の国家資格化にともない、動物病院内の業務内容の高度化だけでなく、動物看護学を学ぶことで、社会で活躍できるフィールドが多様化していると感じ、自身のステップアップのため、大学院へ進学を決めました。

■ 修士論文テーマ

「信州川上犬の保存における毛色の分子遺伝学的研究」

学部での卒業論文は長野県の天然記念物に指定されている「川上犬」をテーマに取り組みました。その際にご協力いただいた、川上犬を保存管理している信州川上犬保存会、川上村教育委員会の方々と交流させていただく中で、ここ数年、川上犬の保存管理に苦悩しているお話を聞き、活動に少しでも寄与できる研究をめざしたことがこのテーマに取り組みうと思ったきっかけです。信州川上犬保存会の関係者への聞き取り調査や川上犬関連資料調査を行い、さらに口腔内細胞からDNA抽出を行い、イヌの毛色を決定する、色素スイッチング遺伝子に着目し、分子遺伝学的実験を行いました。初めて挑戦する実験方法や解析手法に戸惑うこともありましたが、行き詰まったとき、指導教員からの熱心な指導に助けられました。自分自身で研究を進め、それが結果として現れた時の達成感は何物にも代えがたいものがあります。大学院卒業後も研究を続け、愛玩動物看護師としての職域の拡大の可能性を、動物看護学を学ぶ学生たちに伝えていきたいと考えています。



学校法人 ヤマザキ学園

ヤマザキ動物看護大学大学院

〒192-0364 東京都八王子市南大沢4-7-2
京王相模原線 南大沢駅 徒歩10分

☎0120-124979